

送りがなプリント はってん①(もとの かたちにもどす)

なまえ

小6/もとの 形に もどす(1/5)

ひづけ

形が かわった ことばを もとの かたちにもどす

文の 中の かたち

蒸した

→

もとの かたち

蒸す

もとの かたちを 声に 出して 言ってから、かん字の あとに 送りがなを 書く。

線の ことばを、もとの かたちにもどして かん字の あとに 送りがなを 書こう。

(1) この こは まだ 幼くてあるけない。

もとの かたち

幼

(2) おまつりで おみこしを 担いだ。

もとの かたち

担

(3) いのちは 尊くてたいせつだ。

もとの かたち

尊

(4) おじさんは ぎんこうに 勤めます。

もとの かたち

勤

(5) おちついて やれば けいさんを 誤らない。

もとの かたち

誤

(6) きの中の テストは とても 難しかった。

もとの かたち

難

(7) たりない ぶんは みんなで 補っていく。

もとの かたち

補

(8) あめが 激しく ふって きた。

もとの かたち

激

(9) 「おとしよりを 敬おう」と きめた。

もとの かたち

敬

(10) ころんだ とき みんなが 優しかった。

もとの かたち

優

(11) ふゆでも ひなたは 暖くなる。

もとの かたち

暖

(12) ねぎを こまかく 刻んで いれる。

もとの かたち

刻

できたら:もとの かたちを 声に 出して、文の かたちと くらべて みよう。



送りがなプリント はってん①(もとの かたちにもどす)【こたえ】 なまえ _____

小6／もとの 形に もどす(1／5) ひづけ _____

形が かわった ことばを もとの かたちにもどす

文の 中の かたち 蒸した → もとの かたち 蒸す

もとの かたちを 声に 出して 言ってから、かん字の あとに 送りがなを 書く。

線の ことばを、もとの かたちにもどして かん字の あとに 送りがなを 書こう。

(1) この こは まだ 幼くてあるけない。

もとの かたち 幼 い

(2) おまつりで おみこしを 担いだ。

もとの かたち 担 ぐ

(3) いのちは 尊くてたいせつだ。

もとの かたち 尊 い

(4) おじさんは ぎんこうに 勤めます。

もとの かたち 勤 める

(5) おちついて やれば けいさんを 誤らない。

もとの かたち 誤 る

(6) きこのうの テストは とても 難しかった。

もとの かたち 難 しい

(7) たりない ぶんは みんなで 補っていく。

もとの かたち 補 う

(8) あめが 激しく ふって きた。

もとの かたち 激 しい

(9) 「おとしよりを 敬おう」と きめた。

もとの かたち 敬 う

(10) ころんだ とき みんなが 優しかった。

もとの かたち 優 しい

(11) ふゆでも ひなたは 暖くなる。

もとの かたち 暖 かい

(12) ねぎを こまかく 刻んで いれる。

もとの かたち 刻 む

つまずきやすいところ

もどした あとの 送りがなは「もとの かたち」の 送りがな(幼い→い、担ぐ→ぐ)。活用形を そのまま 書かせない。
ない・ます・よう や かった・くて の 形も、もとの 形では 同じ 語に なる。

採点：漢字の あとの 送りがなだけで 正(もとの 形全体の ひらがなは 書かなくて よい)。